

の森 アート

第16号 2016・3

宇都宮美術館
友の会ニユース



棟方志功 《四神板経天井画柵》 1949年（昭和24） 木版、手彩色、紙 106.0×92.5cm

擬人化した白虎、朱雀、玄武、青竜の四神が画面いっぱいに表された様子が印象的な本作品は、はじめ天井画として制作されました。後に改刻、裏彩色され、1956年のヴェネツィア・ビエンナーレで国際版画大賞を受賞。この高評価について、棟方は著書『板畫の道』（宝文館、1956年）の中で、「わたくしのもっていない世界が、この作品に横溢していたのかな」と述べています。棟方は、木の板の魅力を重視し、版画ではなく「板画」、そして、祈りを込めた「柵」と自身の作品を呼びました。四神の躍動感、そんな棟方ならではの素材の生命感や精神的な「何か」に裏付けられたものなのかもしれません。（学芸員 小堀修司）

宇都宮美術館開館20周年に向けて

早いもので宇都宮美術館は平成28年度に開館20周年を迎えることになりました。いま開館のころを思い出しますと、開館の直前には美術館のある文化の森に生態系の頂点に立つオオタカの営巣が発見されて工事期間が延び、予定より半年遅れの開館になったこと。開館の半年前に館長予定者の高見堅志郎先生が急逝され、私はその職を担わなければならなくなったことなど多難なスタートぶりが思い出されます。

しかし、マグリットやシャガール作品など海外にもよく知られ、国内でも各地の展覧会に引っ張りだこのコレクションを形成できたことや、多様なご要望にお応えする展覧会企画などによって、なにより市民のみなさんにより多く足を運んでいただけるような美術館に成長させて

いただいたことは存外の誇りに思います。こうしたことはすべて市民のみなさんのお力添えの賜物と存じあらためて感謝申し上げます。

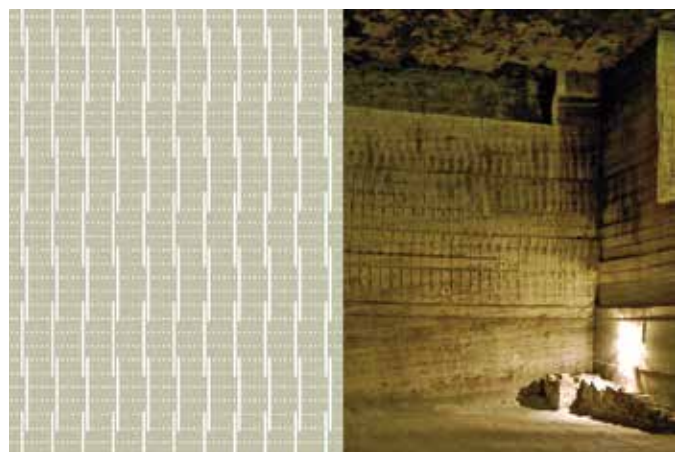
20周年記念事業はたくさんあり、いまその準備に美術館を挙げて取り組んでおります。マグリットのふるさとの貴重な作品による企画展や、宇都宮ならではの「大谷石」を題材にした展覧会やワークショップなど盛りだくさんの事業で臨みます。宇都宮市も市制施行120周年となり、さまざまな事業が展開される予定となっております。どうぞご期待ください。また、今年がみなさまに取りまして実り豊かで幸せな1年となりますようにお祈り申し上げます。
(宇都宮美術館館長 谷新)

大谷石の来し方と行方② —大谷石採掘の痕跡—

「建築」というものは、読んで字のごとく、人が更地に柱を「建」て、壁や屋根を「築」くことで成立するもの — さまざまな用途に供する内部空間を備えた人工物を指します。当然ながら強度と恒久性が求められ、理想的には美しくあらねばなりません。素材としては、古代から用いられてきた木、石、煉瓦、近代以降の主流である鉄、コンクリート、ガラスが挙げられます。大谷石の場合、わがまち独自のモダニズムの発展に寄与し、とりわけ鉄筋コンクリートと組み合わせることで、地域色が豊かな近代建築が生み出されました。

一方、地表や地下に眠る「岩石」の大谷石を、人の手によって「素材」として目覚めさせる場所、すなわち採掘場（石山）は、普通の建築とは異なり、かつそれに匹敵する規模で人が造った空間です。何かを建てたり築くのではなく、石を「採」り、大地を「掘」という行為によって誕生したものなのです。その代表こそが、大正年間から昭和末期まで実働した採掘場こと「大谷資料館」で、人目に触れない超建築性を生かし、第二次世界大戦期は軍需工場、戦後復興・高度成長の時代は政府米の保管庫としても利用されました。

大谷資料館を始めとするかつての石山のうちだけではな



大谷資料館の地下採掘場跡(右)と
「宮の注染を拓く」で生まれたパターン(左)

く、大谷地区のソトに広がる奇岩や岩壁には、そんな採掘の痕跡が無数に見られます。鶴嘴による手掘りの痕は水平方向の軟らかな線、チェーンソーを使った機械掘りの跡は垂直の鋭い溝 — 平成27年度・館外プロジェクト「宮の注染を拓く」では、それがパターン・デザイン化され、時代が重なる「石」と「染め」を結ぶ新柄浴衣地となりました。
(主任学芸員 橋本優子)

企画展のご案内

☆ 齋藤富蔵展

2月14日(日)~4月10日(日)

“学芸員”その職務は多岐にわたり、美術館の頼もしい大黒柱。学芸員をより近くに、美術館により親しみを感じてもらうために、学芸員の方々に順次エッセイをお願いしました。

最近「スター・ウォーズ」に振り回されているという話

2015年12月18日（金）、ついに、『スター・ウォーズ エピソード7 フォースの覚醒』の公開の日である。テレビやラジオで、10年ぶりとなる新しいシリーズの公開をめぐって大騒ぎになっていたから、公開されるやいなやネタばれになるのは必至、しかも同僚のIさんはこの日は公休日で、すでに既出の6作を一気に見たらしく予習も万全、前売りチケットも手に入れている、と言っていた。繊細で賢いIさんのことだから、見てすぐにネタをばらして私を苛めるということもないだろうけど、でもとりあえず今夜見よう、やっぱり見るしかない、そう決意して暗い夜道に車を走らせレイト・ショーに出かけた。・・・約2時間後、エンディングのタイトルバックが流れても誰も席を立とうともしない。うーん、これが最新作かー。レイア姫とハン・ソロ（ハリソン・フォード）はもうさすがに厳しい。ダース・ヴェェダーがいないのもやっぱり淋しい（ダース・ヴェェダーは過去のエピソードですすでに死亡）・・・しかし、ネタばれになるといけないので、感想もここまで。そして、何故いい年をした女子の私がスター・ウォーズに振り回されているのかも、とりあえず2016年2月中ごろまでは内緒です。 （学芸課長 北村淳子）



山瑠璃草（やまりりそう）

美術講演会「竹とわたし」

竹工芸作家 平澤登氏



7月12日（日）宇都宮市在住の竹工芸作家平澤登氏による講演がありました。八木沢正氏に師事し各公募展、個展など製作活動にまた栃木県文化協会常任理事として多方面にご活躍され、穏やかで親切なお人柄で和やかな雰囲気の中で竹工芸品を製作する過程の様々なお話を頂いた。

特に印象深かったのはザル・カゴのような日用品は篠竹で工芸品は苦竹という真竹で作られているそうである。竹の種類が日本で600種、世界に至っては1250種とその多さに驚いた。それぞれの竹の特性を活かした作品が編み出されていく。基本になる細いヒゴを作る道具も手作りなのには感心した。実演も交えて下さったので、魔法の指先をまじかに見ることもできた。 （小林和子）

作家紹介

織物作家 小口慶子氏



今回は、高根沢町出身で、舞台美術やインスタレーションなどの幅広い分野で活躍中の小口慶子氏の絹織物作品を紹介しました。

先生は絹に魅せられ、草木染の色に魅せられ、織を中心に製作活動をしています。

いろいろな形態（糸状、綿状、かたまり状など）や質感を持つ、絹を素材にした先生の華やかな作品は、私たちに『なごみ』を感じさせてくれました。 （亀井研一）

メトロポリタン美術館へ・・・アメリカ紀行

小雨煙る朝、ニュージャージーのホテルよりバスでニューヨークマンハッタンへ、今回の旅行で強く希望していた世界3大美術館のひとつ「メトロポリタン美術館」、まず入館前に手荷物検査（大勢の人が集まる場所では必ず検査）、そして入館料はほとんどの人が払っていない、「希望額」はあるが見た限り払っている人はいないようだ。

さて、最初にエジプト古代美術展、一通り見るだけで2時間はかかりそうな広さだ。次に、世界の地域別にアジア・中東・ヨーロッパ人と展示室があり、名だたる名画・作品があらゆる部屋に。見学時間を4時間30分取ったがとてとても見切れない、後ろ髪を引かれる思いで後にした。

ニューヨークで3泊して次にワシントンへ、ワシントンDC（特別区）はミュージアムの街だ。まず、スミソニアン博物館群、国立航空宇宙博物館にはライト兄弟の飛行機・アポロ11号の指令船、そして「月の石」など。1番良かったのが「ナショナル・ギャラリー・オブ・アート」では、アメリカで唯一の「ダ・ヴィンチ」の絵画を筆頭にゴッホの自画像やマネの「鉄道」そしてラファエッロの「聖母子」など、そのほかにもアメリカ歴史博物館・アフリカ美術館などが軒並み、もち論ホワイトハウス・国会議事堂、リンカーンメモリアルなど、自然と調和した建物の芸術品でした。

今回の旅行は、娘たちがオハイオ州に駐在しているのを機に行ってきた次第です。（友の会会長 青木紀一郎）



南天 (なんてん)

美術館めぐり

2015年10月30日

関越道伊香保ICを降りて最初に、広大な牧場の一角にあるハラミュージアムに到着。さまざまな様式で「時間」が表現された作品展示の他、「絵になった風景」では17世紀以降の精緻な風景画、徐霖「四季山水図」丸山応挙「淀川兩岸図巻」を観賞。昼食後ワイナリーで喉を潤し県立公園の森に立つ群馬県立近代美術館の企画展「戦後日本美術の出発」へ。70年の節目に画家たちは、あの困難な時期を乗り越えて「自由」をどう表現したか、当時を思い浮かべると胸が詰まる思いも。新井コー児の「20年目の一人文化祭」は懐かしい昭和の風景がユーモア一杯に描かれていて、一息つく思いでした。（渡辺勝己）

U-moaコンサート

2015年9月26日

晴れ間の見えた休日の午後、piano&violinデュオ「MIYAY」…秋に奏でる二人の音景…を開催。ピアノ演奏は長島佑希さん、バイオリン演奏は宮川孝司さん。「MIYAY」を誕生させて未だ2年目のお二人ですが、その呼吸はピッタリ、情熱大陸や枯葉等々…余り耳にしないバイオリンの物哀しい音色も聞かせて頂きました。

（菅野明子）

クリスマスの夕べ

2015年12月11日

今回は、「倉沢秀明ジャズトリオ・プラスワン」を迎え軽快なジャズのリズムとボリュームある結喜さんのボーカルでクリスマスモードいっぱい！立食パーティ後は恒例のオークションで盛り上りました。（阿部エツ子）

会員加入状況

2016年1月31日現在 単位：人

一般会員	ペア会員	賛助個人会員	賛助法人会員	合計
344	149	26	26(口)	545

賛助法人会員

(株)西邑画廊 (株)三向地所 (株)トーホー・北関東 (株)田村緑知苑
(株)酒井建築設計事務所 中央電機通信(株) 環境整備(株) 栃木実業(株)
栃の木地所(株) 晋豊建設(株) (株)スズテック 東亜警備保障(株)
三信電工(株) 栃木トヨタ自動車(株) (株)穴吹工務店宇都宮サーパス会
ランスタッド(株)宇都宮オフィス 学校法人宇都宮美術学院 (株)ケイエムシー
(株)栃木銀行 イートランド(株) (有)マルワガラス (有)NON VERSUS
宮ビルサービス(株) 磯部建設(株) (入会順)

編集ノート

落葉を踏み木々の間を抜けて、霜柱を鳴らしながら、編集作業に通う美術館への道は季節の移ろいを伝えてくれる大好きな時間。流れる季節を背景にボランティア室は様々な意見が飛び交う。私の学びの時間。「アートの森」16号を送り出して、暖かい里山の春を待っています。発行に携わって下さった方々に感謝致します。（水垣俊子）

<アートの森> 第16号 (通巻39号)

発行日 2016年3月18日
発行 宇都宮美術館友の会 (宇都宮美術館内)
〒320-0004 宇都宮市長岡町1077
☎028-643-0100